



が、沢が右にカーブしたあたりに5mの滝。左上にのびるバンドを使って直登する。この後も小滝が続き、快適に直登した。

11:30源頭。引き返すことにするが、登ってきた5mと7mの滝が下れず、いずれも樹林帯を捲いて下る破目となった。

[タイム] 遡行開始(11:10)→終了(11:30)

北沢支流トの沢

1989年7月8日

尾根上の小さなコブである641m独標上で小休止。このピークは樹林帯の中で、展望はきかない。五来山から続いている尾根上にかすかな踏跡があるが、通る人はいないようである。

7:00トの沢(仮称)に向けて下降開始。樹林帯の急斜面を5分余り下ったところで水の流れが出てきた。そしてすぐ4m2段滝。左岸を迂回したが、クライミングダウンも難しくない。そのあとすぐ岩質が変わる。今度は花崗岩である。

滝を期待して下ると、すぐに2個の連続する小滝。よく磨かれているが、フリクションをきかせてクライミングダウンする。宮川流域の花崗岩帯は、5~10mクラスの滝が、結構期待できる。

5m階段状滝は、右岸を下る。コケがついていてスリッソウになりちょっと緊張するところもあったが、ホールドは多い。このあともよく磨かれたナメ滝が続く。割合とホールド少なく、慎重に下る。

7:40下降終了。短い結構楽しい下降であった。

(記)

[タイム] 641m独標(7:00)→下降終了(7:40)

